

令和6年度
学校評価アンケート結果
(令和6年12月実施)



秋田県立西仙北高等学校

<内 容>

- 1 質問項目 1 生徒用
 2 保護者用
- 2 学校評価アンケート集計結果（生徒・保護者）
- 3 生徒保護者自由記述

【質問項目】

1 生徒用

A 教育活動全般

- 1 学校から、皆さんにどんな生徒になって欲しいのか伝わっていますか。
- 2 西仙北高校に入学して良かったですか。
- 3 皆さんが困ったとき、先生方は親身になって相談にのってくれますか。
- 4 毎日楽しく登校していますか。
- 5 基本的な生活習慣やルールやマナーの意識を身につける適切な指導がされていますか。
- 6 学校の教育や指導に満足していますか。

B 学習指導

- 1 教科担任は学力向上につながるわかりやすい授業をしていると思いますか。
- 2 本校は、生徒の深い学びをすすめる探究型授業を実践していると思いますか。
- 3 本校は、ICTを活用した授業や生徒に授業の見通しを持たせる授業を充実させていると思いますか。
- 4 朝活動は充実した時間となっていますか。
- 5 定期考査の問題は、身についた学力を確かめることができるものになっていますか。

C 進路指導

- 1 将来の職業や生き方を考えるために、効果的なキャリア教育を行っていると思いますか。
- 2 本校は、進路指導の計画や内容をわかりやすく示し、相談機能が充実していると思いますか。
- 3 本校は、生徒の進路志望を実現するために、補習や模試、資格取得などは充実していると思いますか。

D 学校行事等

- 1 本校は、小規模校として部活動の充実のために工夫していると思いますか。
- 2 学校祭、体育祭等の学校行事に意欲的に参加していますか。
- 3 生徒会活動やホームルーム活動に積極的に参加していますか。
- 4 地域と連携した行事（大綱米プロジェクトなど）やボランティア活動に積極的に参加していますか。

F 生徒指導

- 1 本校は、スマホや携帯電話の使用について、しっかりと指導がなされていると思いますか。
- 2 本校は、いじめやSNSの利用、または社会問題となる問題行動について、しっかりと指導がなされていると思いますか。

2 保護者用

A 教育活動全般

- 1 本校は、学校の教育方針をわかりやすく伝えていていると思いますか。
- 2 西仙北高校に入学させて良かったですか。
- 3 本校は、生徒が困ったとき、親身になって相談にのってくれていると思いますか。
- 4 お子さんは毎日楽しく登校していると思いますか。
- 5 本校は基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるための適切な指導ができていると思いますか。
- 6 本校の教育や指導に満足していますか。

B 学習指導

- 1 本校はわかりやすい授業を目指し、学力向上につながる適切な指導をしていると思いますか。
- 2 本校は、生徒の深い学びをすすめる探究型授業を実践していると思いますか。
- 3 本校は、ICTを活用した授業や生徒に授業の見通しを持たせる授業を充実させていると思いますか。

C 進路指導

- 1 将来の職業や生き方を考えるために、効果的なキャリア教育を行っていると思いますか。
- 2 本校は、生徒の進路志望の実現のために面談など家庭との連携を図っていると思いますか。
- 3 本校は、生徒の進路志望を実現するために、補習や模試、資格取得などは充実していると思いますか。

D 学校行事等

- 1 本校は、小規模校として部活動の充実のために工夫していると思いますか。
- 2 学校祭、体育祭等の学校行事は充実していると思いますか。
- 3 生徒会活動やホームルーム活動で生徒が主体になった活動が多いと思いますか。

E 学校との連携

- 1 家庭と学校の連携は十分にはかられていると思いますか。
- 2 H P や「西高だより」によって本校の活動が地域によく伝わっていると思いますか。
- 3 P T A 活動（P T A 総会、学年P T A 等）は適切に行われていると思いますか。

F 生徒指導

- 1 本校は、スマホや携帯電話の使用について、しっかりと指導がなされていると思いますか。
- 2 本校は、いじめやSNSの利用、または社会問題となる問題行動について、しっかりと指導がなされていると思いますか。

学校評価アンケート集計結果（生徒・保護者）

そう思う
 どちらかというと思う
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 分からない

生徒：回答数(対象者数) 1年 4(4) 2年14(14) 3年 18(18) 総数 36(36) 総回答率 100%

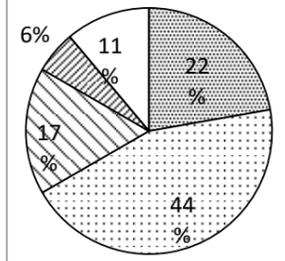
保護者：回答数(対象者数) 1年 4(4) 2年14(14) 3年 17(18) 総数 35(36) 総回答率 97.2%

A 教育活動全般

A

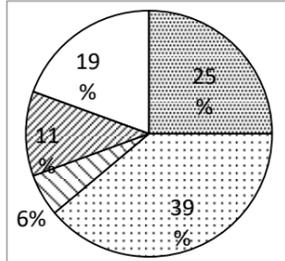
1 学校から、皆さんにどんな生徒になって欲しいのか伝わっていますか。

学校全体



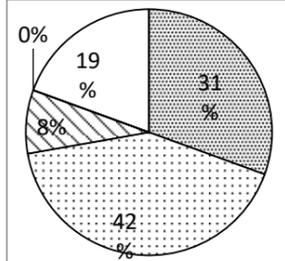
2 西仙北高校に入学して良かったですか。

学校全体



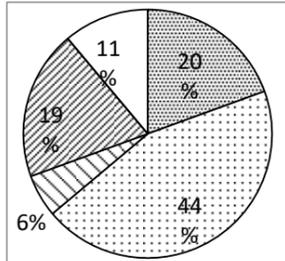
3 生徒が困ったとき、先生方は親身になって相談のつてくれますか。

学校全体



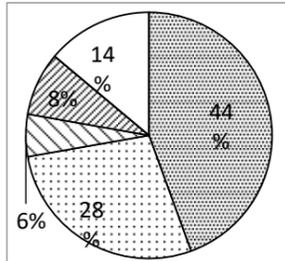
4 毎日楽しく登校していますか。

学校全体



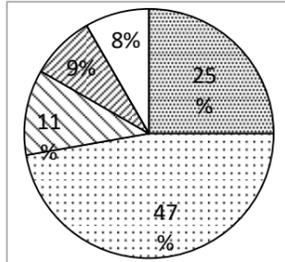
5 基本的な生活習慣やルールやマナーの意識を身に付ける適切な指導がされていますか。

学校全体



6 学校の教育や指導に満足していますか。

学校全体

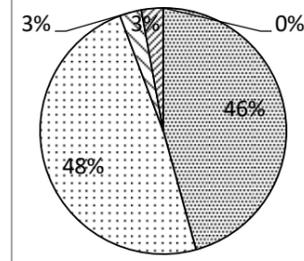


<A 教育活動全般>

A

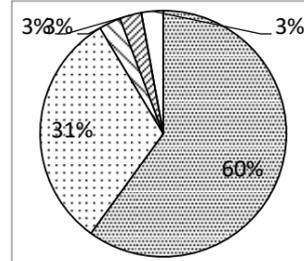
1 本校は、学校の教育方針をわかりやすく伝えていていると思いますか。

学校全体



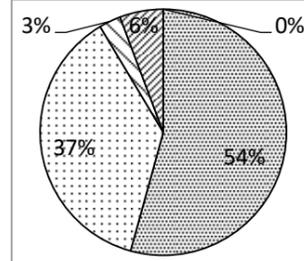
2 西仙北高校に入学させて良かったですか。

学校全体



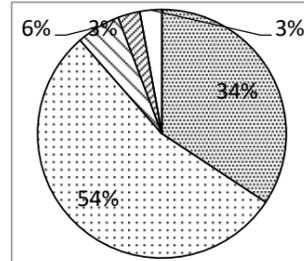
3 本校は生徒が困ったとき、親身になって相談のつてくれていると思いますか。

学校全体



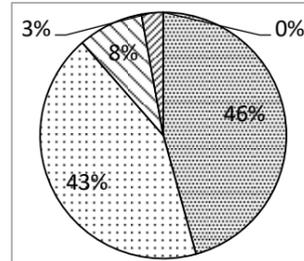
4 お子さんは毎日楽しく登校していると思いますか。

学校全体



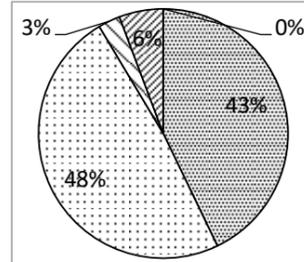
5 本校は基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるための適切な指導ができていると思いますか。

学校全体



6 本校の教育や指導に満足していますか。

学校全体



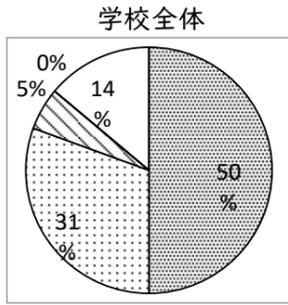
学校評価アンケート集計結果（生徒・保護者）

そう思う
 どちらかというと思う
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 分からない

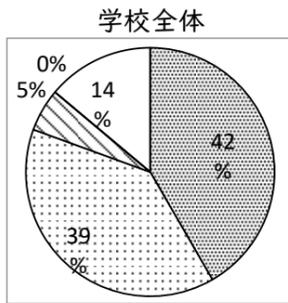
B 学習指導

B

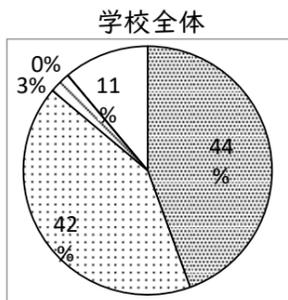
1 教科担任は学力向上につながる分かり易い授業をしていると思いますか。



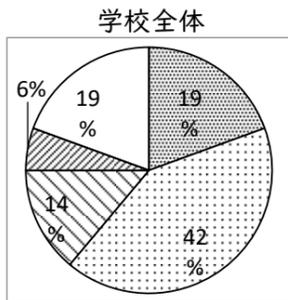
2 本校は、生徒の深い学びをすすめる探究型授業を実践していると思いますか。



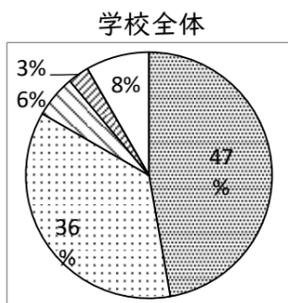
3 本校は、ICTを活用した授業や生徒に授業の見通しを持たせる授業を充実させていると思いますか。



4 朝活動は充実した時間となっていますか。



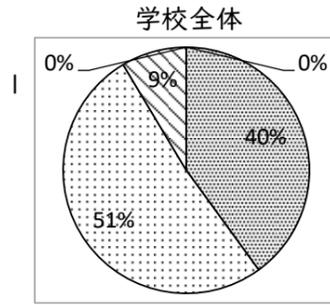
5 定期考査の問題は、身についた学力を確かめることができるものになっていますか。



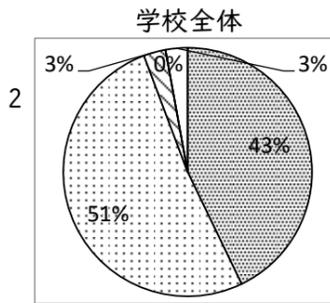
<B 学習指導>

B

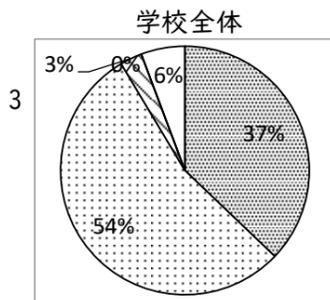
1 本校は分かりやすい授業を目指し、学力向上につながる適切な指導をしていると思いますか。



2 本校は、生徒の深い学びをすすめる探究型授業を実践していると思いますか。



3 本校は、ICTを活用した授業や生徒に授業の見通しを持たせる授業を充実させていると思いますか。



学校評価アンケート集計結果（生徒・保護者）

そう思う

 どちらかというと思う

 どちらかというと思わない

 そう思わない

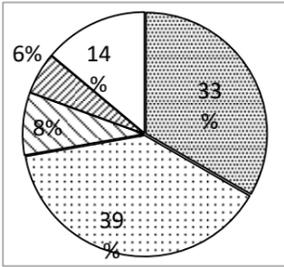
 分からない

C 進路指導

C

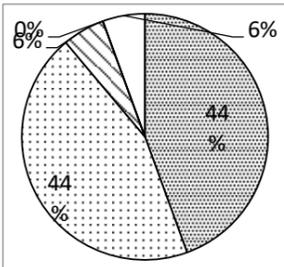
1 将来の職業や生き方を考えるために、効果的なキャリア教育を行っていると思いますか。

学校全体



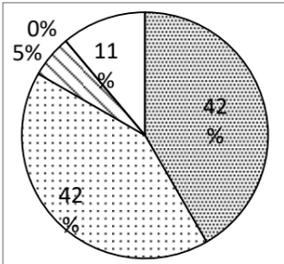
2 本校は、進路指導の計画や内容をわかりやすく示し、相談機能が充実していると思いますか。

学校全体



3 本校は、生徒の進路志望を実現するために、補習や模試、資格取得などは充実していると思いますか。

学校全体

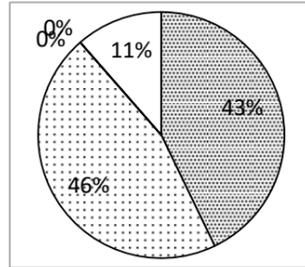


<C 進路指導>

C

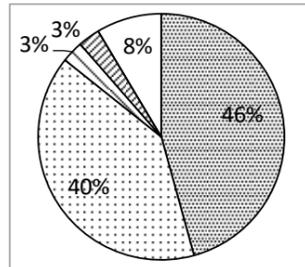
1 将来の職業や生き方を考えるために、効果的なキャリア教育を行っていると思いますか。

学校全体



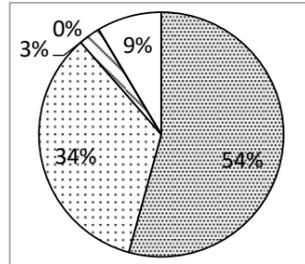
2 本校は、生徒の進路志望の実現のために面談など家庭との連携を図っていると思いますか。

学校全体



3 本校は、生徒の進路志望を実現するために、補習や模試、資格取得などは充実していると思いますか。

学校全体

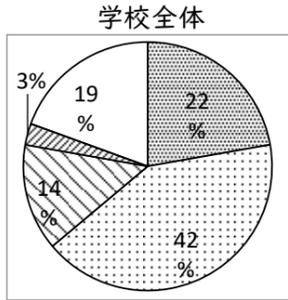


学校評価アンケート集計結果（生徒・保護者）

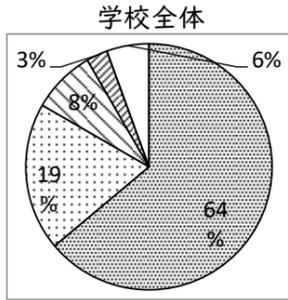
■ そう思う ▨ どちらかというと思う ▩ どちらかというと思わない ▧ そう思わない □ 分からない

D 学校行事等

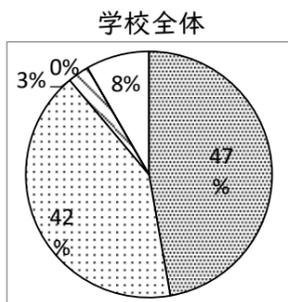
D 1 本校は、小規模校として部活動の充実のために工夫していると思いますか。



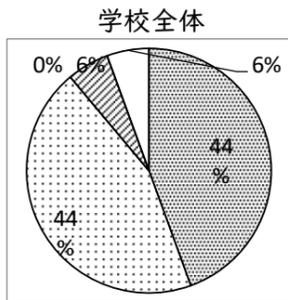
2 学校祭、体育祭等の学校行事に意欲的に参加していますか。



3 生徒会活動やホームルーム活動に積極的に参加していますか。

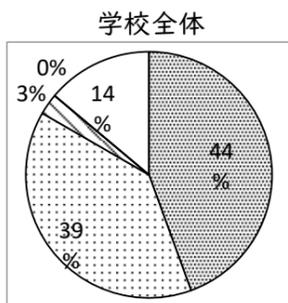


4 地域と連携した行事（大綱米プロジェクトなど）やボランティア活動に積極的に参加していますか。

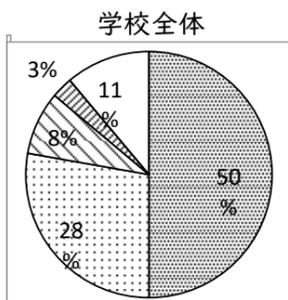


F 生徒指導

F 1 本校は、スマホや携帯電話の使用について、しっかりと指導がなされていると思いますか。



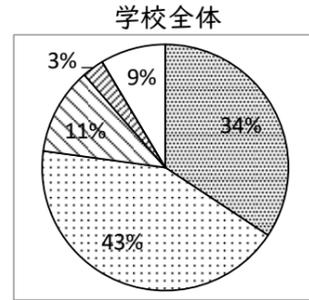
2 本校は、いじめやSNSの利用、または社会問題となる問題行動について、しっかりと指導がなされていると思いますか。



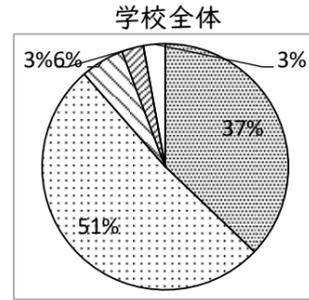
【生徒】

<D 学校行事等>

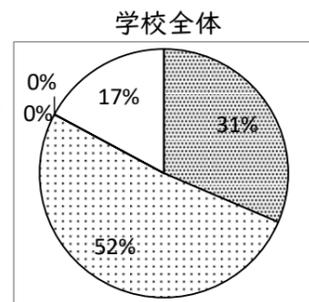
D 1 本校は、小規模校として部活動の充実のために工夫していると思いますか。



2 学校祭、体育祭等の学校行事は充実していると思いますか。

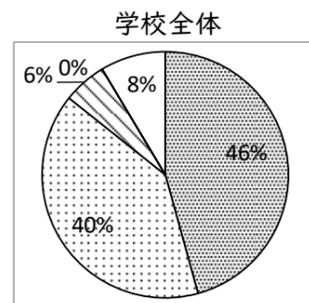


3 生徒会活動やホームルーム活動で生徒が主体になった活動が多いと思いますか。

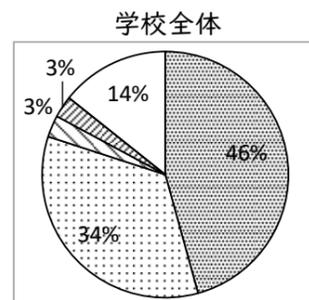


<F 生徒指導>

F 1 本校は、スマホや携帯電話の使用について、しっかりと指導がなされていると思いますか。



2 本校は、いじめやSNSの利用、または社会問題となる問題行動について、しっかりと指導がなされていると思いますか。



【保護者】

学校評価アンケート集計結果（生徒・保護者）

そう思う

 どちらかというと思う

 どちらかというと思わない

 そう思わない

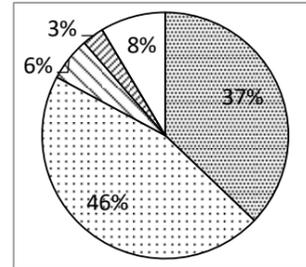
 分からない

E

<E 学校との連携>

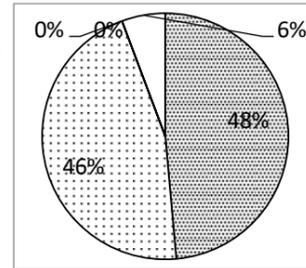
1 家庭と学校の連携は十分にはかかれていると思いますか。

学校全体



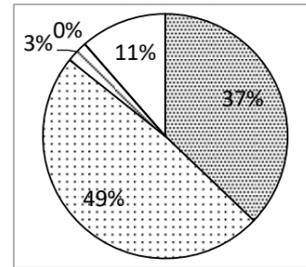
2 HPや「西高だより」によって本校の活動が地域によく伝わっていると思いますか。

学校全体



3 PTA活動（PTA総会、学年PTA等）は適切に行われていると思いますか。

学校全体



令和6年度

学校評価

「あきた型学校評価システム」
による各分掌・教科自己評価

令和7年3月14日まとめ

秋田県立西仙北高等学校

目 次

分 掌

総務部	1
教務部	2
生徒指導部	3
進路指導部	4
特別活動部	5
保健部	6
図書・視聴覚部	7
研修・情報部	8

学年部

1年部	9
2年部	10
3年部	11

教 科

国語科	12
地歴・公民科	13
数学科	14
理科	15
保健体育科	16
芸術科	17
英語科	18
家庭科	19
福祉科	20
商業科	21
情報科	22

重点目標	1 儀式や学校行事の円滑な運営を図る。 2 保護者・地域との連携を図り、学校の活性化に努めるとともに情報発信に務める。 3 学校安全対策を整備し、防災体制を強化する。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・職員の減少＝儀式・学校行事の参加者と運営者の減少により毎年必要な係・配置・運営等多くのことを一から考えなければならない。 ・保護者の学校への関心が高いとは言えない状況。 ・避難訓練は実施できている。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現状に即した効率的な運営を心がけるとともに、より充実した内容になるよう努める。 ・PTA活動や学校行事で保護者の参加が増えるよう企画の工夫をする。またHPや「西高だより」「PTA活動報告」等で学校の情報を家庭や地域に積極的に発信する。 ・日頃から防災意識を高めるとともに、災害発生時の安全確保についてわかりやすい計画を立てる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・現状をよく分析した上で儀式や行事の運営体制を明確にする。また現状を生かした内容を考える。 ・PTA活動については広く意見を聞き様々なアイデアを取り入れる。 ・避難経路の表示を見やすくするなどして環境を整備したり、非授業時のメールシステムを利用した訓練を継続したりするなどして様々な場面に対応できるようにする。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・儀式等は少人数で運営できるよう無駄を省き、あらかじめ実施要項などで全体の流れや個々の職員の動きを示すように心がけている。 ・PTAは、他の分掌からの提案を取り入れて活動の幅を広げたり（清掃ボランティアの保護者参加など）、西高だよりで生徒の活躍の様子を知らせたり、こまめに声かけをして参加を呼びかけたりしている。 ・生徒・職員による避難訓練、職員防災研修等、実際の災害を想定した訓練を実施した。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・儀式等は現在まで支障なく実施できているが、生徒の減少に対応して式場の配置や生徒の役割の見直しなどさらに考える必要がある。 ・PTA活動の参加状況に大きな変化はなかったが、様々な場面で生徒を見ていただくきっかけ作りはできた。 ・避難訓練の実施により避難時の個々の職員の役割や全体の動きをイメージすることができた。 	
自己評価 (1～2月記載)	B	儀式や防災の面では、前例にとられることなく現状に即した取り組みができてきている。PTAについても保護者にとって有益な形を考えていかなければならないと感じる。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	A	入学式は生徒もしっかりした態度で参加しており、厳粛で良い式だった。HPや西高だより等でよく情報発信もなされている。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	儀式での姿は生徒の日常の姿の表れだと感じる。さらに生徒を成長させることができるように、儀式や行事だけでなく学校生活全般において、保護者や地域の方とのつながりを大切にし、力を借りながら運営していきたい。引き続き情報発信に努めたい。 防災については生徒が正しく判断して自ら動けることを目指していきたい。	

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 1 授業を大切にし、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を促す。 2 UD（ユニバーサルデザイン）を意識した授業環境や授業を推進する。 3 変化する学校の状況に合わせて教育課程の見直しを行う。
------	---

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末や電子黒板等のICT機器の活用により、生徒が主体的に取り組む活動が各授業内で増えてきている。 ・HR教室と授業教室を分けたり、板書のルールなどにより生徒が授業に集中できる環境になってきている。 ・生徒数の減少や2年から3年への進級時のコース変更ができない等、現状に合わせた教育課程の見直しが必要になっている。
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業実践やICT活用技術を向上させる取り組みを進める。 ・授業の構成や指示、教室環境などUDを取り入れるように努める。 ・課題を改善し、特色ある教育課程の検討を行う。
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・研修・情報部と連携し、授業でのICT機器の有効活用や校務支援システムによる成績管理をスムーズに行う。 ・日常の教室環境整備を繰り返し指導する。 ・生徒の多様な進路に対応し、学校の魅力や特色となる教育課程となるよう改善を図る。
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修・情報部と連携し、公開授業や研究授業などでICTの様々な活用方法について理解を深める取組を行った。また校務支援システムでの成績処理も不都合な部分を微調整しつつ進めた。 ・西高スタンダードに加え、UDの視点を生かして探究を深める授業づくりを推進した。 ・現行の教育課程の課題を踏まえながら新たな教育課程について検討を重ねた。
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教員が探究型授業やICTを活用した授業、見通しを持たせる授業を行っており、生徒の学習意欲や学力の向上につながっている。 ・各教室はUDの視点が生かされ学習活動に集中できる環境が保たれている。授業においてもUDが取り入れられ、分かりやすい授業につながっている。 ・教育課程については学校目標を実現し、多様な進路や生徒に対応できるものとなるよう見直しを行った。
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	B	学校全体での取組により授業改善が図られ生徒の学習意欲も向上している。今後もICT利用が進むと思われるが、利用が目的化しないよう、教育効果を考えた利用を推進していきたい。
------------------	---	--

評価基準
 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	ICT活用は、生徒が社会に出てからのことも含めて大切にするものであり、幅広い活用が必要である。生徒の多様な進路への対応や積極的なICT活用による授業は効果的であると思われる。生徒の教育について、一人ひとりに向き合っている姿勢が良い。
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	生徒も多様化していく中、授業のあり方も一層工夫が求められるようになってくると思われる。生徒の学びを支援するために授業のUD化や理解を手助けするICTの活用についても理解を深めるような取組を行っていきたい。
--	--

重点目標	1 社会のルールやマナーを守る素直でさわやかな態度を育てる。 2 西仙北高校の一員としての自覚と誇りを持ち、母校を愛する心を育成する。 3 思いやりの心、互いの立場や考え方を尊重し合い社会の一員として共に生きていくことができる開かれた心を育成する。
------	--

現 状	多くの生徒が重点目標に沿って行動ができる一方、「当たり前のこと」をきちんとすることが難しい生徒もいる。また、帰属意識や自尊心の低い生徒もあり、継続して自己存在感を高める工夫が必要である。
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーを守る、挨拶、時間、整容など「当たり前」のことをきちんとできる生徒、「主体的に」行動できる生徒を育成する。 ・社会規範意識を持って行動し、西仙北高校の一員として校歌を高らかに歌うことの出来る生徒を育成する。 ・いじめの予防、根絶に向けて行動できる生徒を育成する。(思いやりの心、互いの立場や考え方を尊重し合うことができる開かれた心を育成する。)
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会での活動及び、生徒会、PTAと連携して登下校のあいさつ運動や及びマナーアップ運動を充実させる。 ・教職員の共通理解のもと、いじめ防止や、いじめ早期発見に努め、その発生に対し組織的に対応する。 ・各種講話や生徒指導便りを通して、ルールやマナーの意義を理解させ、それらを主体的に守ろうとする姿勢を養う。 ・自己有用感を高め、共感的な人間関係を作れるよう支援を継続する。
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、環境委員、PTAと連携した登校時あいさつ運動を2回実施した。また、環境委員がポスターを作成し、全校集会で挨拶励行・整容改善・いじめ防止を呼びかけてマナーアップを図った。環境委員会が主催する全校集会は生徒が活躍し他者を理解する機会とした。 ・年度当初に「配慮が必要な生徒」について職員間で共有したり、改定するいじめ対応関連の規定などについて、その都度職員へ情報を提供し、共有を図ったりした。また、いじめアンケート及び保健部のマンスリーチェック、Q-U結果を活用して、生徒の困りごと相談やいじめ発見、防止に努めた。 ・交通安全教室やスマホ安全講座、薬物乱用防止教室の実施、生徒指導便りでSNSの使い方、他者との関わり、公共の場でのマナー遵守等を呼びかけた。 ・「西高カジュアルデー」を4回実施し、相互理解の場とした。春はシャッフルランチも合わせて行い、学年の枠を超え有効な人間関係を作る場となった。
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・各取り組みや日々の声かけにより生徒達のルールやマナーを遵守する態度が育成されている。 ・相互理解の場を提供することで他者理解を深めることが出来た。
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	今後も職員間の情報共有を図り、個々の生徒への積極的な声かけや各取り組みで生徒の自己有用感を高めたい。
------------------	---	--

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	他者との関わりを大切にして、様々な活動で頑張ることが、自己有用感や自己存在感の高まりにつながることを期待する。基本的な挨拶の指導などありがたく思う。
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	登校時あいさつ運動、挨拶励行・いじめ防止・整容改善等についてのポスター制作及び呼びかけ等のマナーアップ活動は生徒同士で協力し合うよみ全校集会となつた。西高カジュアルデー、シャッフルランチなど他者と関わる機会を積極的に作ることで、自己有用感を高め、共感的な人間関係を作れるようにしていきたい。
--	---

重点目標	1 知性と教養を兼ね備えた、自主性と積極性に富んだ生徒を育成する。 2 個々の希望進路を実現できるよう、強い意志を持った生徒を育成する。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関して、浅い知識しか持っていない。 ・進路達成に関しての情報が乏しい。 ・基礎知識が十分でない。 ・比較検討なしに進路決定を急ぐ傾向にある。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業や学校行事を通して、職業観の形成を図る。 ・生徒一人一人に目を向け、人生の土台を固めさせる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路達成を充実させるように、十分な学力を付けさせる。 ・進路情報を過不足なく提供し、進路達成の一助とする。 ・各学年部と協力し、補習や面接練習などを計画・実施する。 ・希望を否定することなく、挑戦させる意識をもたせる。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部から来る進路情報は漏れなく学年主任に広報した。 ・補習に関しては、長期的な視野に立って行った。 ・面接練習に関しては、学年部に依存した。 ・朝学習は計画的に取り組んだ。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然とした進路決定ではなく、具体的で個人の特性に合致した進路を提示している。 ・学年間の相互協力や教科を超えた協力が不足した感がある。 	
自己評価 (1～2月記載)	B	次年度に向け3年間を見越した進路カレンダーなど目先の指導ではなく、長期的・戦略的な指導や体制の構築を目指す。また、進路情報を保護者にも広報し、意識の向上や選択を広げるように取り組む。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B	中学校でも進路指導に力を入れていますが、出口指導・進学指導だけにならないように、広くキャリア教育として、必要な知識と夢や希望を大切にしていってほしい。様々な体験や資格取得を通して選択肢が広げられればと思う。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望に応じた資格取得の方法や進路先を提示する。 ・キャリア教育の基本となる「進学し勉強するとは」「働くとは」をしっかりと指導するとともに、「セカンドキャリア」を指導し、卒業させて、そこで指導が終わるのではなく、生涯を見据えた指導を実践する。 	

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
------	--

現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数の減少により、従来行ってきた内容の行事が実施しづらくなっている。現在は生徒会が中心となって行事の準備・運営・後片付けを行っている。 全校で地域ボランティア活動（福祉施設でのクリスマスツリーの飾り付け、清掃活動、高齢者宅の除雪）を実施している。
-----	---

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動を通して、生徒が協働できる能力を身に付けさせる。 2 生徒が学校や地域、自他の課題を見だし、解決できるように取り組むことができるようにする。 3 特別活動を通して、生徒が主体的に学校生活を送ることができるような態度を育成する。
--------	---

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 全校生徒が協働し、活動する機会を設けるとともに、集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実する。 2 地元に着目した活動を取り入れ、地域に貢献する意識の高揚と態度を育成する。 3 クラス内での役割や生徒会の組織を通して社会生活における役割の自覚を促す。
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 西高祭や体育祭など、異なる学年の生徒同士で活動する機会を設けた。また、生徒会や生徒委員会による話し合いを多く開催し、学校行事などについて生徒同士が意見交換する場を設定した。 2 昨年度に引き続き、駅の清掃ボランティアや大綱米プロジェクトなど地域と連携した活動に積極的に関わった。 3 生徒数の減少により、委員会や係などの規模は小さくなったが、少人数になることにより個々の活躍の場が増え、生徒が主体的に活動に取り組む姿が多くみられるようになった。
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	多くの生徒がクラスや年齢などに関係なく、学校全体や地域の課題について主体的に考え、異なる学年や地域の方々と協力しながら活動をする場面が多くみられた。
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	B	多くの生徒が異なる学年や地域と協力しながら様々な活動に対して主体的に関わる事ができた。しかし、目標を達成するためには更なる取り組みが必要であると考えられる。
------------------	---	--

評価基準
 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	大綱米プロジェクトなど、小中学生や地域との関わりを今後も大切にしてほしい。少ない人数で地域と協力しながら活動している姿はもっと評価されるべきであり、地域から西高生への感謝の言葉が聞こえてくる。部活動に関しては、個人競技等の充実を希望する。
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	生徒数の減少により生徒や職員一人ひとりの負担が増えてきているが、生徒同士が協力をしたり、地域と協力したりして、活動を進めていきたい。また、生徒を中心とした活動を大切にしていきたいので、生徒同士の話し合いや生徒と教師の話し合いの場を定期的に設けていきたいと思う。
--	--

評価領域	保健部
------	-----

重点目標	1 学校環境衛生に努める。 2 生徒の心身の健康増進や感染症対策の指導に努める。 3 学年や分掌との連携により対象を絞った指導の機会を生かす。	
現 状	1 清掃の取り組みや教室環境は概ね良好であるが、今後も維持していく必要がある。 2 感染症予防について意識が低い生徒もいる。 3 全体的に自己肯定感・自己有用感が低い。特別に支援を要する生徒もいる。	
具体的な目標	1 環境美化に取り組む習慣をつけさせ、美化意識の向上を目指す。 2 健康診断の事前・事後指導を適切に行い、また感染症対策の指導を行うことで、生徒自らが進んで健康に留意する場面を設定する。 3 情報提供の徹底により、良好な人間関係作りの援助をする。	
目標達成のための方策	1 学校生活全体(特に清掃活動)を通して、校舎を大切に扱う心を育てる。 2 保健だよりやポスター等の作成、全体への保健指導を通して、保健衛生面や心身の健康に関する呼びかけを行う。 3 マンスリーチェックや講座を通して、心身の健康を意識させる。また、外部機関(特別支援チーム等)との連携により、気になる生徒についての情報共有・協議を進める。	
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・大清掃を2部制にするなど、少人数でも効率よく広範囲の清掃活動を実施できた。 ・昨年度から地区の小中学校と連携した保健指導に取り組んでいる。生活アンケートの結果を西仙北支所便りに連載していただくなど、地域を巻き込んだ実践を行っている。 ・新入生において、スクールカウンセラーによるグループエンカウンターの実施や学年をシャッフルしたランチタイムを実施し、入学時の緊張を緩和する機会を設けた。また、全校マンスリーチェック、1・2年生のグループエンカウンターは、不適應の早期発見・早期対応に役立っている。 ・要支援生徒へは、スクールカウンセラーによるカウンセリングや高校支援チームの協力等、専門機関と連携して対応している。 	
達成状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方のご指導のおかげで、生徒の清掃の取り組みが非常に良く、校内の清潔が保たれている。 ・地域を巻き込み、小中とも連携した保健指導に取り組んでいる。 ・外部機関を利用し、人間関係作りの援助に向けた取り組みを実施している。 	
自己評価 (1~2月記載)	B	学年部と連携しながら生徒の衛生面、体調面、精神面について対応した。
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B	高校の養護教諭のリードで、小中と連携した保健指導をしてもらった。引き続き、地域全体に関わる保健指導として力を貸していただきたい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでは対応しきれない生涯にわたる健康課題に関して、地域全体で連携しながら指導していく形をこれからも続けていきたい。 ・校内では、他分掌や学年部と連携し、また外部機関の協力を得ながら、支援が必要な生徒へ適切な対応を引き続き考えたい。 	

重点目標	1 図書等の充実と図書館の活性化を図る。 2 朝活動や長期休業中で、読書に親しむ姿勢を育む。 3 ICT教育と結びつけ、本の紹介文を作成させるなど生徒の活動を促す。	
現 状	一人一台端末が貸与されたこともあり、休み時間や放課後に図書館を訪れる生徒は減っている。昨年度、図書館を活用した生徒にも偏りがあり、全く活用しない生徒も多かったため、生徒の活字離れは確実に進行していると考えられる。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望する図書を購入し、図書館の利用を促す。 ・生徒に図書館オリエンテーションを行い、図書館についての理解を深めさせるとともに、活用しやすい環境作りに努める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広いジャンルの図書を紹介したり、購入することで生徒の多種多様な興味に対応できるよう努める。 ・年間で数回「読書週間」を設定したり、長期休業中の読書を促したりして啓蒙活動に努める。 ・タブレットを活用した本の紹介ポスターづくり等を実施し、生徒の本への興味を喚起する。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋と冬の2回、生徒へ本の購入希望調査を実施した。 ・定期考査終了後の一週間を「読書週間」として、朝活動の時間に本を借りて読むように促した。 ・新しく図書館に入った本をポスターにして紹介した。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の希望調査をGoogleフォームで行ったが3人しか希望を聞くことができなかった。そのため2回目は全校生徒に用紙を配って行ったところ10名ほどの生徒から数多くの希望をとることができた。その他、県からの優良図書や先生方からの推薦図書、地域探究の関係図書など合わせて120冊以上の本を購入することができた。 ・2年生の一部の生徒がよく図書館を利用してくれたが、なかなかその他の生徒が本を借りて読む姿を見ることができなかった。そのため、おすすめの本の紹介文を募るなど更に図書館が活性化するような活動を行っていききたい。 	
自己評価 (1～2月記載)	B	今後は考査後や長期期間中の読書をもっと薦めて、1人3冊は図書館から本を借りて読むように啓蒙活動したい。
評価基準	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B	生徒が読みたいと思う本の選定・購入が大切かと思う。地域に開放した図書館など可能か、検討いただきたい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・書店に並ぶ本は興味が沸くものが数多く、来年度も生徒の意見を取り入れて図書館の本の充実を図りたい。 ・PTAや送迎など、保護者が学校に足を運んだ際にぜひ図書館を活用できるように働きかけをしていきたい。地域に開放する場合は、放課後の時間帯になると思うが可能かどうか検討していきたい。 	

重点目標	<p>1 「他と協働して課題解決ができる生徒」の育成を目指し、ICT等を活用した授業改善に役立つ情報提供や職員研修を実施する。</p> <p>2 生徒に情報モラルに関する知識を身に付けさせ、情報モラルを守ろうとする態度を育成する。</p>
------	---

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が自己の研鑽に生かせるように、教育センターをはじめとする諸機関からの情報を提供している。 ・モラルに関する指導は、AIのさらなる発展により継続した指導が必要である。
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報部及び総務部は本校教職員の意見を採り入れながら、学校のホームページを作成する。 ・インターネットの接続に必要な環境の設定に努める。 ・各分掌やICT活用推進リーダーと連携し、校内研修の計画、ICT機器等の活用を推進する。
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会や公開授業でICTを活用した授業展開を示し、他者の利用状況を知る機会を設けて、授業改善を図る。 ・生徒指導部や学年と連携し、生徒が情報モラルについて考える機会を設ける。
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業や授業アンケートの評価方法を評価しやすい形にし、よい取り組みを取り入れやすくした。職員研修は、特別支援、健康、防災に関する研修を行った。ICTを活用した取り組みを紹介した。 ・情報モラルについては、生徒指導や教科と連携しながら考える機会を設けた。また、指導する側の意識を高め指導に生かすために、著作権に関するクイズを公開した。
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業では、一人2科目以上の参観をし、参考になった取り組みを評価シートに記入し提出していた。 ・インターネットの接続とタブレットの利用については、大きなトラブルや事故はなかった。 ・情報モラルについては、生徒指導や教科と連携しながら考える機会を設けることができた。
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	B	公開授業や授業アンケートの評価により、他の教員のよい部分やICTの活用など授業改善について考えることができた。BYODに向けて、生徒個別の端末操作に職員が対応するスキルを身につける必要があるが、機種を選択と連携して取り組む必要がある。
------------------	---	---

評価基準
 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	他教科に学ぶことも大切であるので、機会をとらえ全職員で授業参観・研修をしていくとよい。特にICTの活用等は教科を超えて参考にできるところが多いと思う。
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<p>授業アンケートについて入力忘れなどがあったので、データの集め方について改善しなければならない。来年度は、授業アンケートのデータをブラインド形式で集めたい。BYODについて今後の動きを明確にすることが出来なかった。決定したことを随時情報共有させ、混乱を招かないようにしたい。今年度はICTに関する情報を提供することはできたが、研修を実施することが出来なかった。日々入力に関連して何か計画したい。</p>
--	---

評価領域	1年部
------	-----

重点目標	1 学校生活をはじめ、あらゆる物事にチャレンジする心身を育む 2 失敗を恐れず、主体的に学ぶ姿勢を尊重する	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数が4名と非常に少なく、うち3名は同じ中学校の出身である。 基礎学力が定着していない生徒がほとんどである。 クラスの係や委員会、清掃など、一人一人の責任が大きい。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に学校行事や生徒会や委員会、部活動に関わる。 環境の変化や新たな学習に対して、食欲に興味・好奇心を持つ。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 時機を見極めて、一人一人に役割を与える。 少しずつでも成長していることを実感させ、自信を持たせる 	
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 清掃当番について、一人ずつ担当箇所を受け持たせた。 学校を主体的に運営する意識を持たせた。 地域探求において、昨年まではグループで調査しまとめていた活動を、一人ずつテーマを持たせ、個人で調査させた。 	
達成状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> 責任感を持って日々の清掃に取り組んでいる。 4名全員が生徒会役員に就任した。 地域探究では、一人ずつ自力で調査しまとめ、プレゼンを行った。 	
自己評価 (1~2月記載)	A	「チャレンジ」「主体的」という点では環境上、そうならざるをえない。欠席も非常に少なくここまでは順調だが、次年度はキャリア教育・進路指導にも力を入れたい。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	A	4名での学校生活に頭が下がる。引き続きよろしくお願ひしたい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	この一年間取り組んできたことを継続しつつ、さらなる生徒の成長を目指したい。生徒それぞれの具体的な学習到達目標を教員間で共有し、軌道修正しながら前進する。 キャリア教育や進路指導も手厚くしていく。夏のインターンシップを大切な機会とする。	

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 1 規律ある生活習慣を確立する。 2 進路目標を明確化し、その実現に向けた学習態度を確立する。 3 学校の諸活動に積極的に取り組み、他者と協働する姿勢を養う。 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに学習に参加しているが、進路希望達成のためには計画的・継続的に学習に取り組み、一層学力を高める必要がある。また一部生徒に生活リズムの乱れがあり、修正が求められる。クラスとしてのまとまりや協力する姿勢が出てきており、これをより高めたい。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のスケジュールを理解し、見通しを持った行動をとる。自己管理に努め、欠席・欠課を少なくする。提出物の期限を厳守する。 ・就職先・進学先および進路達成の手段について具体的に理解する。自分の力を決めつけない。 ・ベル着を心掛けるなど、授業を大切にする。朝学習・模擬試験・補習等に粘り強く取り組み、着実に学力を身につける。 ・相手の立場や状況を理解し、常に適切な言動をとる。自分にできることを頑張り、協力し合う。学習以外の活動にも積極的に参加し、様々な経験を重ねる。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の側に立ち、達成できたことを認める姿勢で声かけをしていく。 ・適宜面談をすることで進路達成に向けた学習の必要性について理解させ、計画的な学習や振り返りについて具体的に紹介する。 ・お互いに思いやりを大切に、切磋琢磨させながら社会人として必要とされる資質を育成する。 		
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・休みがちな生徒・保護者との面談を行い、改善に努めた。 ・生徒への声かけはしたが、思いを汲みじっくり話す機会が少なかった。 ・手帳を用いた計画的学習や、学習の振り返り、朝学習に取り組みさせた。補習は、生徒による取組み状況の差が大きかった。 ・SHRや修学旅行等で思いやりの大切さを説く機会を多く設定した。 		
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席・欠課生徒の多い状況が向上心の低下や学校生活を楽しくしていない状況につながっていたと思われるが、年度末になり改善傾向にある。 ・朝学習が学びの習慣化につながっているが、計画的学習は徹底できていない。 ・年度当初から生徒指導的な場面がたびたび起きたが、粘り強い指導もあり、年度後半にやや落ち着きをみせた。 ・学校行事やボランティア活動等に積極的に参加し、見聞を広めることができた。 		
自己評価 (1～2月記載)	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">B</td> <td>特定の生徒への指導に比重をかけ、クラス全体を見た取組みに欠いた部分がある。進路達成に向け生徒の学力・意識向上を図りたい。</td> </tr> </table>	B	特定の生徒への指導に比重をかけ、クラス全体を見た取組みに欠いた部分がある。進路達成に向け生徒の学力・意識向上を図りたい。
B	特定の生徒への指導に比重をかけ、クラス全体を見た取組みに欠いた部分がある。進路達成に向け生徒の学力・意識向上を図りたい。		
評価基準	<p>A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない</p> <p>C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">B</td> <td>個別の指導で難儀されていると推察できるが、引き続き、粘り強い指導で卒業までお願いしたい。ぜひ、現2年生の生徒には60周年記念事業を引っ張っていただきたい。</td> </tr> </table>	B	個別の指導で難儀されていると推察できるが、引き続き、粘り強い指導で卒業までお願いしたい。ぜひ、現2年生の生徒には60周年記念事業を引っ張っていただきたい。
B	個別の指導で難儀されていると推察できるが、引き続き、粘り強い指導で卒業までお願いしたい。ぜひ、現2年生の生徒には60周年記念事業を引っ張っていただきたい。		
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、達成できたことを認める姿勢の声かけや、面談をきめ細やかに実施し、欠課・欠席の多さや問題行動の未然防止に努めたい。 ・その一方で進路達成のため、適切な進路選択に向けた働きかけや、朝学習・補習等生徒の学力伸長に向けた仕掛けをしていきたい。また60周年記念事業に向け、日々の関わりの中で生徒の自主・自律の姿勢やリーダーシップを発揮し、学校全体を引っ張る意識を涵養したい。 		

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 1 幅広い学力や知識、ICT 活用力、コミュニケーション能力を身につける。 2 社会人として要求される責任感を身につける。 3 集団における自己の役割を強く意識し、地域や社会に積極的に貢献していく。
------	---

現 状	学校設定教科である地域探究がスタートした学年として、設定した課題解決のため地域に出向いて調査・まとめ・発表を重ねてきた。また3年生として進路意識が高まっているので、信頼されるような行動を習慣化できるように取り組んでいる。
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業を大切にし、基礎基本の徹底を図る。物事を多方面から考えるなど、適切に判断できる礎を築く。ICTを活用した情報収集・問題解決能力を養う。相手の意見に素直に耳を傾けると同時に、自分の意見を積極的に述べる。 ・清潔な整容や正しい礼儀に心がける。状況に応じた挨拶・言葉遣いを習得する。提出期限を守る。自分を支えてくれるものに対する感謝の気持ちを忘れない。 ・学校行事や部活動に意欲的に参加するなど、高校生活の充実を図る。物事に対して前向きに取り組み、多くの経験を自らの健やかな成長に生かす。
--------	--

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域探究Ⅲのまとめとして、校外でICT等を効果的に使ったプレゼンテーションができるように研究や工夫を重ねる。 ・他者から信頼される人となるために、マナーや礼儀を忘れずお互い尊重し合い、必要な時には注意し合える関係を大切にさせる。
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を見つけた活性化させる方策について探究してきたことと協力を進めたい先生方や地域の方々も招いて、大綱交流館でプレゼンテーションを行った。 ・生徒一人ひとりの学校生活や学習・進路活動状況を把握・サポートできるように、担任と学年部全員で協力して日々の学級経営に関わった。
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の地域探究を通して、「解決に必要な情報収集能力、発想力、レポートを書く力、ICT活用能力、主体性、協調性、計画性などの力が高まった」と全員が自己の成長を感じている。 ・基本的な生活習慣やルール・マナーを意識しながら行動している。また、卒業後の進路が全員決定した。
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生として生徒会活動やボランティア活動等の学校行事における中心となり、地域や社会に貢献しようと取り組んでいる。 ・一人ひとりが進路を決め、社会人としての責任感を身に付けようと努力している。
------------------	--

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p style="text-align: center;">A</p> <p>卒業後の進路が全員決定との記載があり、先生方の御指導に感謝したい。進路決定に際し、皆さんの努力が素晴らしいと感じた。</p>
------------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 ※第3回CSの実施後に記載	卒業後の進路先において一人一人が集団における自己の役割を強く意識し、地域や社会に貢献し、社会人としての責任を果たしていくことを期待している。高校生活は、地域や社会に積極的に貢献していくための基盤づくりとなると考えている。
--	--

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開や形態の工夫を図るとともに、適切な教材を選択し、生徒の主体的な学びを促すことにより、学力の向上と知識の定着を目指す。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に意欲的に取り組む生徒も一部にはいるが、義務教育段階までの知識が不足しているために、高校での学習内容を扱うことが厳しい生徒が多数を占める。 ・論理的な文章を読解する力を有する生徒は少数であり、教科書の本文を音読することが厳しい生徒も多い。 ・語彙力が低いため、表現力も拙いことが多い。 ・漢字の読み書きを苦手とする生徒が多い。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を引く教材研究・実践を行う。 ・基礎学力の向上と知識の定着を図る。 ・社会で求められる語彙力・読解力・表現力を育む。
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の学びあいの時間を設け、理解の浸透を図る。 ・グループワークと個別での学習を、バランス良く使い分ける。 ・週末課題において、漢字の読み書きを継続して学習する。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的な講義形式の授業にならないように留意し、グループワークの時間を設定し、常に生徒からの気づきや考えを引き出すように努めた。 ・単元のねらいやテキストの本質を大切にしながらも、生徒の日常や将来に置き換えて考えられるよう、具体例の提示やテーマの設定を工夫した。 ・週末課題として各学年に漢字ドリルを用意しており、長期休業中にも取り組ませた。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生や3年生の授業では、活発な意見交換が見られた。 ・ワークシートの自由記述には、生徒それぞれの気づきがよく書かれていた。 ・課題の取り組み状況には差が見られた。
6年度の課題及び7年度の具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって授業進度のスピード感が違うため、年間学習計画の作成時に、余裕を持った計画を立てる。具体的には、新3年生は欠席しがちな生徒が複数いるため、振り返りの時間を設ける。新2年生は読み書き、および話すことに苦勞している生徒がいるので、グループ学習や個人毎の発表の時間を多く取り入れる。 ・漢字の読み書きに関しては、粘り強く指導を続ける。

評価領域	地歴・公民科
------	--------

重点目標	社会の変化に主体的に対応できる能力の育成と、現代社会に生きる公民として必要な基礎学力の定着をはかる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育段階での基本的な知識が定着していない生徒が多い。 ・学習意欲の個人差が大きく、地歴・公民科の学習に苦手意識を持つ生徒も多い。 ・社会的事象に対して主体的に考察しようとする姿勢が弱い。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・画像・映像・資料をもとに自らの考えをグループワーク等によりまとめさせ発表させる場面を設定する。 ・適切な振り返りを実施することで、知識の定着を図る。 ・社会で生活していく上で必要な知識を習得させる。
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材や画像・映像・実物教材など、生徒の興味関心や学習意欲を引き出す教材を活用する。 ・グループやペアで協力しながら課題を探究してまとめ、発表させる場面を設定する。 ・一問一答や重要ポイント・疑問点確認による振り返りを実施する。 ・授業内で主権者教育及び消費者教育の内容を扱う。 ・積極的に時事問題を取り扱い、社会事象に関心を向けさせる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目においてICT教材を用いた学習、一問一答や重要ポイント確認による授業の振り返りを適宜実施した。 ・知識の習得だけでなく、自ら課題を探究してレポートにまとめたり、発表する活動を行った。 ・労働問題や模擬裁判など、卒業後関わるかもしれない事項について、公民の科目で扱った。 ・新聞記事などで時事問題を扱い、現代社会に関心を向けさせた。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材、画像、映像等を提示して生徒の関心を高めることができた。また授業振り返りを通じて、生徒に授業時間内での成果を確認させることができた。 ・グループワークやペアワークによる課題探究活動で、主体的な学習を促すことができた。その一方で効果的に活動場面の設定ができなかったり、教材精選が徹底できず、授業計画が遅れる場面があった。 ・主権者教育、消費者教育、時事問題への取り組みを通じて、実社会で必要な実践的な知識を習得させることができた。
6年度の課題及び7年度の具体的対策	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的に課題探究活動の場面設定ができなかったり、教材精選が徹底できず、授業計画が遅れる場面があった。 <p>[具体的対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題探究型学習を実施する場면을精選するとともに、課題探究活動の前提として、知識理解の方法を効率的なものにする必要がある。他教科や他校の例なども参考にしつつ、積極的に授業に取り入れていくことで学習効果を高め、目標達成に結びつけたい。

評価領域	数学科
------	-----

重点目標	生徒の学習意欲を喚起させ、基礎学力の定着と進学希望者の学力向上を図る。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年共に上位層と下位層の差が激しい。 ・基礎学力の定着がなされておらず、四則演算がおぼつかない。 ・生徒によっては、高い進路実現に向け、大学受験程度の内容を必要としている。 ・意欲は充実しているが、長時間の挑戦が不得意である。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じて学習内容を精選する。基本的内容を繰り返し学ばせ、基礎学力を育み、達成感を得ることができる授業を展開する。 ・多様な進路希望の実現に向けて指導の機会を充実させる。学び直しや補習等をとおして基本的・発展的内容の指導を行う。
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を目指した授業を展開し、考えさせたり、問題を解くための時間を十分に確保する。 ・解法や理解の幫助を十分に行う。 ・誤答や不理解などを受容しながら、積極的な変容を促す。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・エルモを活用した視覚的な授業を率先して実施した。直感を大切にしながら、論理的思考を指導した。 ・理解度や実力に合わせた演習を行った。また、ALを取り入れながら、生徒相互の理解度を深めた。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な実践は効果があった。更に、理解度に合わせたプリント学習を実践できた。 ・補習に関しては、限定的に行った。
6年度の課題及び7年度の具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者に対して、入学試験や進学後の学力担保の為に、教育課程外の内容に関する補習や朝学習を計画・実施する。 ・進度別、進路別の対応を充実させ、より個に応じた内容を提供し、学力の充実を図る。 ・電子黒板等の活用はもちろん、論理思考だけに頼るのではなく、視覚や、直感を補助として理解度や、学力の定着を図る。

評価領域	理科
------	----

重点目標	<p>1 科学や科学技術に興味・関心をもつ生徒の育成に努める。</p> <p>2 基礎基本の定着に努め、基礎学力の向上を図るとともに、進学にも対応できる学力を養う。</p>
現 状	<p>身近な自然現象に興味を持つなど、もともとは好奇心旺盛だった様子が見え始める生徒もいるが知識の定着までには繋がらず、中学校卒業までに身につけるべき基礎学力が不足している生徒が多い。分かる、できるという自信を持たせられるような指導をする必要がある。</p>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動等を通して自然科学への興味・関心を高め、学習活動に意欲的に取り組ませる。 ・授業への取り組みを大切に、復習を継続的に行うことで基礎基本の定着を図るとともに、大学入試レベルの内容にも取り組ませる。
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な科学事象を取り上げながら生徒に興味をもたせ、レポート作成や他者との話し合いの中で、それぞれの考えを深められるよう授業を展開する。単元ごと等で振り返りの時間を設定し、学習内容を確認することで定着を図る。 ・審査問題や評価方法を工夫し、日常の学習活動やレポート課題等の提出状況を成績に反映させる。また、入試レベルの問題にも取り組み、日常のしっかりした取り組みで進学にも対応できることを実感させる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール発酵やイオン化傾向、イオンからなる物質等の実験を行った。カビの繁殖の様子を数週間かけて行い、その胞子を顕微鏡で観察する実験を行った。実験後は、それをスライドにまとめて記録に残すようにした。 ・主にからだの構造などは覚えるべき語句がたくさんあるが、一般常識として身につける知識であるので繰り返し学習した。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の特性にもよるが、暗記すべき事柄のときは、ペアワークで繰り返し問題を出し合って完璧に覚えてから教師の前で口頭チェックを行った。 ・生物分野では一つの図につき、たくさんの語句が出てくるので、プリント学習の後、テスト勉強をさせ小テストで確認するというサイクルを定着させた。
6年度の課題及び7年度の具体的な対策	<ul style="list-style-type: none"> ・秋以降は教室での授業が多く、なかなか理科室での活動ができなかったのが反省点である。知識を身につけることに重点を置いた授業に偏っていった部分もあるので改善していきたい。 ・実験や観察を行い、その後はレポートやスライドを作成してみんなの前で発表するなど、動きのある授業を目指していきたい。しかし、理科という特性を活かして、日常生活とリンクさせた役立つ知識を身につけさせることを1番の目標にしたい。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動の特性に応じた技能や健康の保持増進に関する知識を身に付けさせる。 2 運動や健康についての課題を発見し、解決を目指して協働的に取り組むことができる生徒を育成する。 3 主体的に学びに取り組み、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能が身につけていない生徒が多い。 ・意欲的に学習に取り組むことができる生徒とそうでない生徒が二極化している傾向にある。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な知識と技能の習得に対する意識を向上させるために、習熟度チェックテストを活用する。 2 学習課題を認識させ、その解決方法について協働的に考えさせる。 3 基本的な生活習慣に関する意識を向上させ、学んだことを実生活において実践させる。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 単元ごとにテストを実施し、習熟度や学習の取り組み状況、自身の技能や体力の変化を実感させる。 2 学習活動や生活習慣をグループで振り返る機会を設け、課題やその解決方法を協働的に考えさせるようにする。 3 ディスカッションやポスターセッションなど知識を活用する学習活動を取り入れる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<p>単元ごとにスキルテストやミニテストを実施し、学習評価に活用することができた。また、グループで課題に取り組む活動や知識を活用する学習活動を複数回、実施した。</p>
達成状況 (1～2月記載)	<p>スキルテストやミニテストの実施により、自身の成長を実感した生徒もいたが、なかなか成長を感じ取ることができなかった生徒もいた。活動のなかで、自身やグループの学習課題に気づき解決を図ろうとしている姿がみられる場面もあったが、課題を発見できずただ活動を続けている場面もみられた。</p>
6年度の課題及び7年度の具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の成長を実感させるために、ICTや学習シートなどを活用し、自身の成長を数値や映像などで可視化させていきたい。 ・課題解決力を育成するために、グループシートで課題を共有し、課題を常に意識させることで、課題解決に向かわせていきたい。また、互いの課題を見付け、指摘し合う場面を設けていきたい。

評価領域	芸術科
------	-----

重点目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。
現 状	音楽との関わり方がスマートフォンを通してのものに偏る傾向が強い。生活の中で音楽を通して表現する機会や友達と関わる経験は少なくなっているように見受けられる。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育み、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に応じた丁寧な技術指導をする。 ・鑑賞して感じたことや発見したことを発表し合って様々な感性に刺激を受けたり受け入れたりしながら、より深く音楽を味わえるようにする。 ・話し合いや教え合いの場を大切にしたり、活動の成果を発表し合ったりしながら音楽の楽しさを十分味わえるようにする。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・特に能力差の大きい器楽においては個別指導に加え、生徒同士の教え合いを取り入れている。 ・鑑賞では生徒の表情をよく観察し、感想を言語化する際に生徒の思いを十分に引き出せるように心がけている。 ・発表会を設定し、グループ作りから編成決め、選曲、練習を経て発表までの一連の活動を協力して行うことで音楽の楽しさを様々な角度から味わえるようにしている。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校で初めて扱うギターや小・中学校から苦手意識の強いリコーダーについては個別指導が有効であった。技術を身に付けることで表現意欲も高まった。 ・表現することに対しては消極的でも、感想を述べたり批評し合ったりする活動の中に豊かな感受性を発揮できた生徒もいた。様々な活動を工夫することにより生徒の良さを発揮させることができた。 ・発表会の取り組みの中で、調べる力、話し合って決める力、友達に教える力、成果を披露することで得られる達成感など多くの力が身に付いた生徒もいる反面、与えられた時間を有効に活用できずあまり変容が見られない生徒もいた。
6年度の課題及び7年度の具体的な対策	発表の機会を複数回設定したことで、前回の反省を活かしながら生徒たちで取り組めるようになったことは良かった点である。その一方で集中できない生徒も複数いたことから、目標のレベルを下げることなく、取り組みやすい題材を用意したり手立てを示したりするなどの工夫をしていきたい。また、全体的に表現意欲の高くない学級では、表現活動で集団の良さを感じとらせたり、一人一人の良さを認め合えたりするような題材や活動を提示していきたい。

評価領域	英語科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が主体的・協働的に学習に取り組み、基礎学力の定着を目指す。 2 実践的コミュニケーション能力を高める。
現 状	基礎的な知識が十分定着しておらず、英語に対する強い苦手意識をもつ生徒が多い。また、家庭学習の習慣が十分身につけていない。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ペアワーク等を通じて、協働的に学ぶ姿勢を育む。 2 基礎的事項の理解を徹底させ、自信をもって英語を発話できるような授業を行う。 3 パフォーマンステストを定期的に行い、実践的な英語を身につけさせる。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の内容を生徒にとって身近な話題と関連づけ、興味・関心をもたせる。 2 スモールステップで学習を進め、生徒に達成感をもたせる。 3 ペアワークやグループワークなどを取り入れ、生徒が発話し、学び合う活動を増やす。 4 スピーキングテストを定期的に行う。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の内容と関連させた自己表現活動を随時行った。 2 苦手意識を克服しながら、わかる喜びを感じられるように、中学校の内容の学び直しや高校での既習内容を繰り返しながら授業を進めている。 3 ペアワークやグループワークを取り入れ、お互いに教え合いながら4技能にわたる活動を進めた。 4 ALTの協力を得て、全学年でスピーキングテストを実施した。
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己表現することを楽しむ雰囲気が出てきたと感じる。今後も生徒が表現したくなるような課題を設定し、取り組ませたい。 2 スモールステップで、しかも理解が十分でない生徒には時間をかけて個別指導をすることができ、基礎事項の定着に繋がっている。 3 内容理解を教員主導ではなくペアワークで行った。コミュニケーションをとりながら協力し、補い合おうとする姿勢が見られた。 4 授業だけではなく、休み時間や登下校においてもALTと英語でコミュニケーションをとろうと努力している。
6年度の課題及び7年度の具体的な対策	<p>英語が苦手な生徒にとっては、基礎的事項の定着を図るという目標に向け意欲的に取り組んでいるが、成績上位の生徒を伸ばすためためには習熟度的な指導が必要であり、一昨年まで行っていたTT指導の必要性を改めて感じた。</p> <p>また、今年度は英検受験希望者がいなかった。授業内での対策や受験がなくなると、本校での実施は難しいのかもしれない。</p>

重点目標	生活面での自立ならびに家庭生活を営むために必要な基本的知識と技術を身につけ、主体的・協力的に家庭や地域の生活に生かす実践的な態度を育てる。
現 状	学習では実習等に苦手意識を持っており自信のない生徒が多いが、意欲的に取り組む生徒がほとんどである。1年生は内容や指示の理解に時間がかかるが、真面目に粘り強く取り組む生徒が多い。2、3年生のライフデザインコースでは、苦手な科目でも前向きに努力し、仲間と協力しあいがら取り組んでいる。学習したことを積極的に生活に生かすような工夫が必要である。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の実態に即した教材やICTを活用し、興味・関心を高める。 2 実習や演習などの体験的・課題解決的学習を通して、主体的・協力的な態度を育成する。 3 資格取得に力を入れ、達成感を味わうことができるようにする。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の実態に即した教材を精選する。探求活動や発表、評価の他基礎技能動画や模擬体験などにICTを有効活用する。 2 実習や演習などの体験的学習を各単元で実施し、学習を通して主体性と協調性を育成する。 3 資格取得に向けた学習を通し自信や成長につなげる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 各学年の生徒の実態に応じた教材を精選した。各科目においてタブレットや電子黒板を活用したバラエティ豊かな教材に取り組むことができた。 2 各科目で実験や実習、グループワークやペアワーク、発表を適宜取り入れ、生徒が主体的に取り組む場面を多く取り入れた。校外実習は、受け入れ先の施設側に理解を頂いた上で、実習日時と内容等に関して充分に連絡を取り合い、予定通りに実施できた。 3 食物調理技術検定、保育技術検定、手話技能検定、ビジネス文書実務検定、情報処理検定などを実施し、資格取得に向けて計画的に取り組むことができた。
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の実態に即した教材を精選し、基礎的知識と技術の習得を目指して取り組んできた。タブレットや電子黒板を活用した授業を適宜実施すること、授業への興味や関心を高められたと思う。 2 自分の考えをグループで共有し、意見をまとめて発表する活動は柔軟に対応しなればならない時もある。しかし、さまざまな形態の体験的学習活動や発表活動を複数回実施することで、協調性、主体的な発言、発表態度等において、生徒の確実な成長を実感している。生徒の自立に向けた学習として有効であると考えている。 3 授業内容と検定内容をしっかりとリンクさせながら、知識と技術が結びつくよう何回も練習を行った。苦手意識があった生徒も練習を重ねることで、自信をつけて検定に臨むことができた。
6年の課題及び7年度の具体的な対策	単元のバランスが課題であるが、授業への意欲を深めたり、グループワークや実験・実習等を適宜取り入れ、生徒が主体的に参加する体験型の授業を今後も意識していきたい。また生徒の実態に即すよう、タブレットを用いた教材研究を進めたい。教材の新聞記事やデータなど時事問題も取り入れて、社会の情勢に関心をもち、社会の一員として生きるための力を身につけることができるようにしたい。

重点目標	福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、福祉の心を育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザインコース3年生の受講科目である。実習等に積極的に取り組む生徒が多い。 ・異なる年齢層の人との関わりが苦手な生徒がいる。 ・礼儀正しく、自信を持って行動できる生徒を育成する必要がある。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 おもいやりの心を育てると共に、主体的、協力的な態度を育成する。 2 地域と連携して実践的な学びを充実させる。 3 ICTを活用し、自主的に問題を解決出来る能力の育成を図る。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 様々な体験活動や多くの人との関わりから人の気持ちを思いやることの大切さに気付きを持たせ、思いやりの心を育てる。 2 地域の施設等の協力を得て、各単元において複数回の校外実習を実施する。 3 探究活動や発表の他、記録や自己評価等にICTを有効活用し、自主的に問題を解決する能力を育成する。
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉協議会、社会人講師活用事業、手話学習など地域の人材を活用して専門的な授業を行うことができた。介護福祉士の授業では、コミュニケーション術、ボディメカニクス、車いす実習、排泄、食事介助、認知症サポーター養成講座など、盛りだくさんのプログラムで授業することができた。手話学習では、聴覚障害者の方と手話で日常会話をし、これまで学習した成果を大いに発揮することが出来た。 2 校外実習は、2日間特別養護老人ホームウォームハートのデイサービスで実施した。利用者とは会話をしたり、入浴後介助や食事介助をしたりという触れ合いの時間を多く持つことができた。 3 実習の記録、自己評価、確認テスト、手話単語の読み取り練習、学習のまとめ時などタブレットを有効活用することができた。
達成状況 (1~2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会人講師の方のご協力により例年通り多くの校内実習を実施できた。社会人の方の講義を通してより専門的で盛りだくさんのプログラム内容で授業を実施することができた。 2 今年度もウォームハート1か所の実習となったが、これまでの取り組みにより、利用者の方と触れ合いについて配慮していただいた。実習依頼から、マナー指導、生徒の礼状作成まで準備は大変であったが、生徒にとっては実りある授業となった。 3 個々の活用だけでなく、ICTを用いて、グループやペアワークを実施することで考えを深めることができ、まとめや発表も自信をもって行うことができた。
6年度の課題及び7年度の具体的対策	<p>[課題] 校外実習について、生徒数の減少により大仙市のバス利用がかなわなくなり、生徒の実習機会が1施設失われたことが残念である。一方、受け入れてくださった施設については、複数回の交渉・生徒への事前・事後指導・教師側の事前準備等の負担が大きい。生徒にとって得るものが大きく、今後も実習の機会を保ちたい。生徒の主体性を養うためのICTの活用を含めた授業の工夫と教材の精選が今後必要である。</p> <p>[対策] 校外実習は、学校外の場所で、様々な方と触れあう体験活動を通して自ら気付き学ぶ貴重な活動である。実りある実習ができるように早い時期からの生徒への指導・教師側の準備を行って意識を高めていきたい。校内実習においては、1人ひとりが実習に関わることができるよう少人数制で指導しているが、授業で得た知識が確認できるよう今後も教材や実験・実習の精選をしていきたい。</p>

評価領域	商業科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 商業科目に興味を持たせ、経済社会の一員としての基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。 2 経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。 3 ビジネスマンとしての立ち振る舞いを意識し、実践させる。
現 状	<p>少人数だが切磋琢磨して、目的を持って授業に臨んでいる。自分の課題を把握し、目標に向けて課題に繰り返し取り組むなど、資格取得の意義と大切さを理解し、合格しようという強い気持ちが見られる。</p>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 指導方法の工夫に加え、学習の手段として資格取得に積極的に挑戦させる。補習、個別指導を充実させる。 2 問題を明確にし、自ら考え、実践する態度を養う。 3 ビジネスに対する心構えや倫理観を育成するため、毎時の授業でルール・マナーを徹底し、整容面も正させる。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 個々の能力に合わせて個別指導を充実させる。 2 各自で評価し、問題点を自ら見つけ解決手段を考えることを意識させる。 3 授業開始時の整容指導を徹底すると同時に、なぜマナーや整容面を正すのかを考えさせ、自発的に行動できるように促す。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 TTで指導を分担したり、長期休業中や放課後の個別指導を充実させた。 2 社会の出来事について意見を出し合い、どのように行動するべきか発表する機会を多く設けた。 3 授業時の身だしなみの徹底と、道具、ロッカー、ファイルの整理などを何度も繰り返し指導した。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得は、部門の合格はしたものの完全な合格にいたらない生徒が数名おり、とても惜しい結果であった。 ・商業科目の内容を総合的に捉え、ビジネスプランを考え発表したり改善点を見つけるなどすることができるようになった。 ・忘れ物や整容面で4月当初より改善が見られ、集中して授業に取り組めるようになった。
6年度の課題及び7年度の具体的対策	<p>授業で繰り返し出来ていたことが、考査や検定では活かされないことがあった。確認の小テストを単元終了時に行うのではなく、タイミングをずらし何度も行うことで改善したい。長期休業中の課題をこなすことが出来なかったため、休業中に限らず継続して指導したい。</p>

評価領域	情報科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会との関わりについて理解を深める。 2 様々な事象を情報とその結びつきをとって捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 3 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
現 状	<p>一生懸命授業に取り組み、自分の意見を文章にして述べる事が出来る。コンピュータ操作については、保存やローマ字入力でTTが必要である。しかし、操作自体は楽しいと感じているようで、少しずつ能力を身につけている。</p>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 コンピュータやデータの活用について理解を深め、学んだことをあらゆる場面で活用させる。 2 身近な事象を情報と結びつけて、情報技術を適切かつ効果的に活用する能力を高める。 3 教材を工夫し、達成感を味わうことができるようにする。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 いろいろなソフトウェアの基本的な操作を身につけさせ、場面にあった活用が出来るように考えさせる。 2 普段利用しているものにどのような技術が使われているのか、プログラミングの面から考えさせる機会を設けた。 3 基礎・基本をしっかりと身につけられる教材を精選した。
具体的な取り組み状況 (1~2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 他教科や行事等と連携することで、いろいろなソフトウェアの基本的な操作を体験し、PCとタブレットの互換性なども説明しながら活用させた。 2 身近な情報機器の例を挙げ、他者と話し合いながら意見をまとめ発表する機会を作ることを心がけた。 3 Webコンテンツのクイズを使って、合格ラインに達するまで繰り返し取り組ませた。
達成状況 (1~2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の入力が苦手な生徒には個別でプリントを用意し、繰り返し練習させることで、スムーズに入力できるようになった。 ・また、検定試験にチャレンジする生徒もいた。 ・プログラミングの学習では、アルゴリズムを言葉で表現することの難しさを実感して、正しく伝えることに一生懸命取り組んでいた。 ・長期休業中の課題や小テストを実施して、こまめに評価することができた。
6年度の課題及び7年度の具体的対策	<p>1年間を通して他者と話し合いながら意見をまとめたり、ワークショップを行うなど積極的に活動することができたが、プログラミングテストの結果から、文章を読み解く力が不足しているため、共通テストに対応出来るレベルに達するのは難しい結果であった。来年度は、日頃の発表やレポートの表現方法に注意して、改善できるようにしたい。</p>

令和6年度学校評価アンケート自由記述への回答

今年度も生徒・保護者の皆様から多くの御意見を頂戴いたしました。ありがとうございました。いただいた御意見につきましては、職員会議において全職員で内容を共有し、各分掌等で改善策や回答を検討いたしました。その内容についてまとめましたので御覧ください。

生徒アンケートより

・スマホを回収しない方が良い。

○スマホの回収については、入学前のオリエンテーションで保護者及び新入生に説明した上で「携帯電話の持ち込みに関する届出書」を入学時に提出してもらい保護者の同意のもと実施しています。保護者からの緊急連絡等は学校への電話で対応してもらっており、引き続きご理解をお願いします。

・意味がわからない校則が多い。文化祭で綱引きは無い。学校つままない。

○綱引きは、刈和野に昔から伝わる文化であり、文化祭での綱引きは、生徒だけでなく、地域の方々を含む来場者全員が参加できるイベントを実施したいという視点から、新たな試みとして取り入れました。来年度以降も、各種行事をさらに盛り上げるために、意見交換を重ねながら取り組んでいきたいと考えています。

・予定はきちんと連絡されているのにその予定が変更されたことは連絡されていないときがあるのでそこを改善してほしいです。

○生徒に対しては、グーグルカレンダーを月毎に作成して行事予定を記入し、クラスルームで見られることを伝えています。またこの指摘を受けて、最新のグーグルカレンダーを印刷したものを教室後ろに掲示するようにしました。

・学校運営協議会でも話が合ったように、部活動を活性化したほうが良いと思う。

○部活動の活性化は、生徒の自主性や協調性を育むうえで重要な課題の一つだと考えています。生徒一人ひとりが無理なく取り組み、充実した活動を行うことができる環境を整えることが大切だと考えています。今後も、生徒や保護者、関係者の意見を取り入れながら、より充実した部活動のあり方を検討していきます。

・一年生の人数が少ないので体育が退屈そうだからたまに合同体育をしてみたらいいと思う。

○人数が少ないと学習活動の選択肢が制限されることがありますが、学習のねらいや内容は学年ごとに異なるため、他学年との合同体育の実施は難しいのが現状です。ただし、今後、ね

らいや内容等を確認しながら合同授業も検討します。また体育の学習以外の学校行事や LHR などで、他学年と交流できる機会を設けることを検討していきたいと考えています。

・一部先生方の生徒への対応の仕方を柔らかくしてほしいです。

○教職員の生徒・保護者また外部の方々への態度については真摯な対応を心がけるよう折々に自覚を促しておりましたが、御指摘があることから、より徹底をはかって参りたいと考えています。生徒・保護者、そして関係するすべての皆様が、さわやかなコミュニケーションのできる学校を目指していきます。

<保護者より>

・先生方に要望があります。進路などに関わらず、生徒の書類の提出のやり方がわからない、書類はどうしたらよいのかなどわからないことがあり、不安だと思えます。生徒が助けを求めたらわからないという回答ではなく生徒が安心できるように手助けして頂けるとありがたいです。何でも親がやってあげるのではなく生徒が自立して自分で社会に出ていけるようにサポートして頂けると親としても安心できます。高校を卒業した後は社会人になる人もいれば大学など行く生徒もいると思います。先生方も大変だと思えますがもう少し生徒に寄り添ってサポートしていただけないでしょうか。どうかよろしくお願いします。

○今後は、進路に限らず、提出すべき書類の書き方の例やポイントを生徒にきちんと提示するなど、寄り添った対応を徹底していきます。